

紀ノ川改修計畫概要



紀ノ川改修計畫概要

一、總 說

紀ノ川ハ近畿附近ニ於ケル有數ノ大河ニシテ源ヲ奈良三重兩縣ノ境ナル大臺ケ原山ニ發シ始メハ奈良縣下ヲ貫流シ後和歌山縣下ニ入り遂ニ紀伊水道ニ至リテ海ニ朝ス其奈良縣下ニ屬スル部分ヲ吉野川ト稱ス上流ハ概ネ山地ニシテ平地少ク沿岸僅カニ帶狀ノ耕地アルノミナルモ下流ニ至ルニ從ヒ山脚漸ク遠ク岩出ニ至リ遂ニ和歌山平野ニ出ヅ之レヨリ地勢頓ニ開ケ田園遠ク連リ農桑ノ業盛ナリ特ニ河口ニ近ク人口十餘萬ヲ有シ商工業極メテ盛大ナル和歌山市アリテ和歌山縣下ニ於ケル産業上極メテ重大ナル部分ナリトス沿川ノ地古來灌溉ノ便交通ノ利本川ノ恩惠ヲ受クルヲ甚大ナリシト雖モ一方ニ於テ水患ニ苦ムヲモ亦少カラズ特ニ下流平野ノ部分ハ堤防矮少且薄弱ナルヲ以テ出水毎ニ多少ノ破堤アラザルハナク若シ夫レ大洪水ニ會センカ家屋ノ流失田園ノ荒廢等産業ニ及ボス被害輕少ニアラズ特ニ市街地ニ浸水スルニ至リテハ其慘害舉ゲテ數フベカラズ

此ノ如キヲ以テ紀ノ川改修ハ多年ノ問題ニシテ國及地方ニ於テ其調査ヲナシタル一
 一再ニ止ラザレドモ解決ノ機運到ラザリシガ偶々大正六年十月ノ大出水ニ遭遇シ改
 修ノ一日モ緩フスベカラザルヲ認メ大正七年度ヨリ更ニ調査ニ着手シ改修計畫ヲ定
 メ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四ケ年ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百
 萬圓ヲ以テ施行スルコトナリタリ

一、流路及流域

本川上流ナル吉野川ハ源ヲ大和伊勢ノ境ナル大臺ヶ原山附近ニ發シ西北流シテ山間
 ヲ迂餘曲流スルコト數回奈良縣吉野郡國樸村ニ至リ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ入レ
 同郡上市町ニ至リ方向ヲ西微南ニ轉シ吉野山ノ麓ヲ流レ下市町ヲ經テ五條町ニ至リ
 左方ヨリ黒瀧川ヲ併セ次デ和歌山縣下ニ入り始メテ紀ノ川ト稱セラル夫ヨリ橋本町
 ヲ過ギ九度山町ニ至リ左支丹生川ヲ入レ尙大体同方向ニ流レ妙寺名手粉河ノ小都邑
 ヲ經テ幾多ノ小支ヲ併セ岩出町ノ東端ニテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ入レ同町ノ狹窄
 部ヲ經テ始メテ和歌山平野ニ出ツ更ニ流ル、コト約十八糎(約四里半)和歌山市北端ヲ擁
 流シ左方ニ和歌川水軒川ヲ分派シ右ニ土入川ヲ入レ尙二三ノ中洲ヲ擁シテ數派ニ離

合シ遂ニ湊村ニ至リテ海ニ注ク幹線流路延長凡ソ百三十糎(約三十三里)奈良縣下ヲ流
 ル、コト約七十五糎(約十九里)和歌山縣下ヲ流ル、コト約五十五糎(約十四里)ナリ水面勾配
 ハ高水時岩出町ニ於テ約四百分ノ一最下流部ニ於テ約千五百分ノ一トス
 流域ハ奈良縣吉野、宇智、二郡和歌山縣伊都、那賀、海草、三郡及和歌山市ニ跨リ其面積次ノ
 如シ

縣 別	平地面積		山地面積		計	
	平方糎	方里	平方糎	方里		
奈 良	六四、〇〇〇	(四、二)	八九二、〇〇〇	(五七、八)	九五六、〇〇〇	(六二、〇)
和 歌 山	二七四、〇〇〇	(二七、七)	六八六、〇〇〇	(四四、五)	九六〇、〇〇〇	(六二、二)
計	三三八、〇〇〇	(三二、九)	一、五七八、〇〇〇	(一〇二、三)	一、九一六、〇〇〇	(一三四、二)

流域ハ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ峰巒重疊セリ水源地方並ニ川ノ南方ニハ所謂紀伊山
 脈ニ屬スル山岳群起シテ平地殆ンドナク所々ニ峻峰ヲ起シ流末地方ニ近ツクニ從ヒ
 次第ニ高峻ノ度ヲ減ゼリ然シテ之レ等山岳ハ主トシテ古成層ノ岩石ヨリ成リ下流地
 方ノ一部ニハ品質剝岩ヲ露出セリ流域ノ北方ハ略々川ニ並行シテ走レル三畝山脈及
 和泉山脈ニヨリ劃セラレテ前者ハ主トシテ片麻岩及古成層ヨリ成リ後者ハ中成層ニ
 屬スル和泉砂岩ニ依リテ構成セラレ山勢一般ニ高峻ナラズ而シテ紀ノ川ノ溪谷ハ紀

伊半島ヲ貫通セル一大斷層ニ沿フテ生ジタル地構上ノ縱谷ニシテ其兩岸ハ山嶽急傾斜ヲナシ近ク逼リ沿岸僅カニ帶狀ノ平地ヲ見ルノミナリト雖モ下流ニ至ルニ從ヒ山脚漸ク遠サカリ平地次第ニ開ケ遂ニ和歌山ノ沖積平地ニ連レリ

水源地域ハ奈良縣吉野郡ニ屬スル所謂吉野森林ノ占ムル所ニシテ杉檜等樹木鬱蒼山相良好ナリト雖モ宇智郡以下和歌山縣ニアリテハ林態稍趣ヲ異ニシ蒼鬱タル林相ヲ缺キ赭禿ノ地漸ク多ク特ニ河北和泉山脈ニ屬スル地ヲ以テ甚シトス

三、灌漑及舟運

灌漑反別ハ全流域ニアリテハ九千三百九十五ヘクタール(九、四七三町步)ニシテ内奈良縣下ニ屬スルモノ七百四十六ヘクタール(七五二町步)和歌山縣下ノ分八千六百四十九ヘクタール(八、七二一町步)ナリ後者ノ大部分ハ和歌山市附近ノ平野ニ屬スルモノナリ舟航ハ上流ニ於テモ多少小舟ノ便ナキニアラズト雖モ稍重要ナルハ五條町以下ナリトス特ニ和歌山市以下ハ市中ヲ曲折貫流セル派川和歌川ト相俟チテ舟楫甚ダ盛ナリ而シテ水源地方ハ我國有數ノ林業地ナルヲ以テ木材ノ筏トシテ川ヲ流下スルモノ著大ノ量ニ達シ凡テ和歌山市ニ至リ或ハ製材セラレ或ハ更ニ他地方ニ輸出セラル、河口

ニ於ケル潮夕干満ノ差ハ最大約一米八十釐(六尺)ニシテ其影響ハ上流約五軒一里餘和歌山市東端ニ達ス

四、水 害

紀ノ川ニハ古來屢々水害アリ其詳細ハ正確ナル記録ナキヲ以テ知ルニ由ナシト雖モ往古人煙稀疎ナリシ時代ニハ川ハ岩出町以下西南ニ向ヒ山麓ニ沿ヒテ流レ和歌浦灣ニ注キタリト云フ、後チ幾多ノ變遷ヲ經テ遂ニ現今ノ河道ヲトルニ至レルナリ而シテ口碑ノ傳フル所古老ノ手記スル處ニ據レバ文化文政以後ニ於ケル頻繁ナル洪水ノ災害ヲ想察スルニ足ルモノアリ南堤即チ左岸堤ノ缺潰ヲ見ンカ濁水和歌山ノ城下ヲ襲ヒ其被害ヲシテ一層慘憺タラシム故ニ藩政時代ニ在リテハ南堤ノ危急ヲ告グル片故ヲニ北堤ヲ切崩シテ之レヲ救治シタリト云フ近時ニアリテハ明治二十二年ノ慘害ハ尤モ大ナリシモノニシテ明治二十九年、三十二年等之レニ次ギ最近ニアリテ大正六年ハ其水位水量ニ於テ明治二十二年ヲモ凌駕スルノ大出水ニシテ之レガ爲メニ遂ニ本改修ノ實施ヲ見タル程ナリ試ニ二十二年ノ被害ノ概要ヲ摘記センニ浸水家屋一萬七千六百五十九戸流失及倒潰家屋百九十七戸死傷五十五人内死者二十一人其他田畑ノ

荒廢道路橋梁堤防ノ破損等舉テ數フベカラザリシ和歌山市ノミノ浸水家屋九千七百三十八戸ニシテ全戸數ノ約三分ノ二ニ達セリト云フ如何ニ其被害ノ甚シカリシカヲ知ルニ足ラン

今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレバ全流域内ニテ一萬一千七百二十五ヘクタール(一一、八二三町步)ニシテ内奈良縣下ノ分三百七十八ヘクタール(三八一町步)和歌山縣下ニ屬スル分一萬千三百四十七ヘクタール(一、四四二町步)ナリ而シテ後者ノ内岩出町以下ニアルモノ七千九百三十九ヘクタール(八、〇〇八町步)ニシテ是即チ本改修ニ依リ水害ヲ免ル、區域ナリ

五、改修計畫

改修計畫ハ洪水防禦ヲ主眼トシ其區域ハ岩出町以下海ニ至ル二十軒(五里)間ニシテ即チ和歌山附近ノ平野ニ屬シ利害ノ關係最重大ナル部分ナリ
流量及水位ハ從來ノ最高水位タル大正六年十月ノモノヲ基準トス即チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大洪水量每秒五千五百六十立米(二〇〇、〇〇〇立方尺)ヲ疏通シ得ベキ工事ヲ施設スルニアリ

紀ノ川ノ現在河幅ハ概シテ廣濶ニシテ岩出狹窄部ノ百七十米(九十餘間)ヲ除ケバ他ハ三百三十米(約一八〇間)乃至七百六十米(約四一八間)ヲ有スルニ依リ岩出狹窄部ヲ切擴ゲ其他二三ノ狹隘ナル個所ハ四百三十米(約二三六間)乃至四百九十米(約二七〇間)ニ擴張サレド河中ハ現在ノ儘ニシテハ尙河積不充分ナルヲ以テ掘鑿及浚渫ヲ行ヒ前記ノ計畫流量ヲ快疏スルニ充分ナラシメ上流ノ洪水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮少セシメントス

堤防ハ舊堤擴築部並ニ新堤共ニ總テ其天端ヲ計畫洪水位以上一米五十糎(五尺)ニ在ラシメ其標準断面ハ馬踏幅七米(二十三尺)裏法ハ二割トシ天端ヨリ二米(六尺六寸)ヲ下リテ幅三米(九尺九寸)ノ小段ヲ附ス表ハ二割法トシ高サ大ナル場所ニハ四米(十三尺二寸)ヲ下リテ五米(十六尺五寸)ノ小段ヲ設ケ以下三割法ニテ下ルモノトス尙必要ナル個所ニハ石張其他適當ナル護岸ヲ設置スルモノトス

各支派川ハ本川ノ逆流ヲ考慮シ舊堤ヲ擴築シ又ハ樋門ヲ設置スル等專ラ洪水ヲ防ギ河口ニハ突堤ヲ築キ洪水ヲ快疏セシムルト同時ニ相當水深ヲ維持セシメ以テ舟運ニ便セントス

六、改修ノ利益

本改修工事ニシテ竣工セシ曉ニハ改修區域内ニ屬スル約八千ヘクタール(八、〇六七町步)ノ水害ヲ全ク免レシムルノミナラズ岩出狹窄部擴張ノ結果上流ノ洪水位ヲ低下シ浸水區域ヲ縮少スルト同時ニ浸水時間ヲ短縮セシムルノ利益大ナルモノアルベシ尙惡水ノ排除ヲ良好ニシ土地ノ改良ヲ促進シ農産物ノ收穫ヲ増大スルハ勿論河口水深ノ維持ニ依リ運輸上ノ改良發達ニ資スル所著大ナルノ外衛生上ノ改善ニ資スル處蓋シ多大ナルベシ

以 上

昭和二年三月

内務省大阪土木出張所